

平成26年度

第5回岡山市保健福祉政策審議会における主要な意見

- 1 日 時 平成27年1月8日(木) 13:30~14:50
- 2 場 所 岡山市保健福祉会館9階 機能回復訓練室
- 3 出席者 委員8名
- 4 傍聴者 報道3者、傍聴者2名
- 5 議 題

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の見直しについて

- ・ 新しい総合事業について
- ・ 第6期計画素案について
- ・ パブリックコメントの実施について

6 主要な意見

<新しい総合事業について>

- ・ 地域の受け皿として、サロンが考えられるが、運営をすべてボランティアだけで行うのでは、長続きしない。ある程度の財政的な支援は必要と思われる。
- ・ 地域の方の居場所づくりというのが最大の課題で、ある程度サポートする人がいないと、地域だけに任せるのではうまくやっていけない。また、ボランティアができる方も地域では限られてくるため、その方たちの負担になっていかないように気をつけたいといけないと思う。
- ・ 居場所づくりにおいては、月に1回程度では本当に必要な方がなかなか出てこられない。場所をたくさんつくって、その日の気分で行けるということが大事だと思う。
- ・ 平成29年4月に実施するというのは、介護保険に頼るだけでなく地域で支えるという意識に変えるための良い期間ではないかと思う。

<第6期計画素案について>

- ・ 介護サービス等の充実をするのであれば、介護職員の処遇についても計画の中に入れてもらいたいと思う。
- ・ 介護人材の確保は危機的状況である。介護のイメージアップが必要であると思う。
- ・ 本計画において、最終年度の総括的な評価をどのように誰がどういう観点から実施するであるとか、中間の地点での形成的評価が必要であれば、いつ、どのように、どこがするかといった評価という観点の記述が全体的に少ないという印象がある。概要くらいでも、計画の中に入れるほうが良いではないか。

- 岡山市は、全国平均と比較して認定率が高い。認定率を高めないようにというのが、まずは一つの方向ではないかと思う。特に認定率が急激に高まる後期高齢者（特に80歳以上）の方の認定率をどうやって下げていくかということが重要になると思う。
- 健康寿命の延伸ということも言われているが、市民が主体的に参加し、介護の問題に関心を持つようにしていかなければいけない。
- 生活圏域ごとの高齢化率と認定率は必ずしも相関していない。このあたりについては、今後要因分析等を行っていったほうが良いのではないか。